

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	環境創造学部環境創造学科 Faculty of Social- Human Environmentology
評価基準 7	教育研究等環境
点検・評価項目(4)	7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
	ティーチング・アシスタント (TA)・リサーチ・アシスタント (RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備
	研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況
点検・評価項目(6)	7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

7-4	TA 等が院生に限られているため、本学部では TA 制度が実施できない状態にある。ただし研究補助員を板橋に 1 名置いている。また上級生が下級生の学習支援をするという環境を検討している。ゼミの学生の代表が集まるゼミ連携会も定期的に開催している。
7-6	教育研究等を支援する体制は、教務委員会が責任をもって行っている。また学生生活相談委員会でも学生への学修支援を検討している。努力しているが、学生の基礎力の低下がみられ充分とは言えないと認識している。

【効果が上がっている事項】

7-4	・第 12 回環境創造フォーラム「今、改めて考える大東文化大学と地域の防災」を開催した。地域と学校・自治体による防災対策と「防災ワークショップ」の報告を行い、実施報告と今後の活動に向けた提言を行った。学部ではこの成果を今後にもつなげ地域貢献していきたい考えである。 ・環境創造学会主催の講演会「50 年後の日本社会を考える」を開催、キャリア支援に役立てている。 ・学部独自のホームカミングディを実施し、卒業生と在校生との交流を深めている。
7-6	学生の「主体的な学び」となっている学外活動やボランティア活動の報告会を設けることにより、単位認定し、学部で評価している。しかし、教育研究等環境の適切性を定期的に検証してこなかった。

【改善すべき事項】

7-4	環境創造学部は、大学院を設置しておらず、院生による TA は困難である。そこで学生による SA の制度やチューター制を検討し、ピアサポートの実現に向けて、検討する。そのためには、4 年間一貫同一キャンパスが望まれる。ライティング・カフェなど気楽に協力する空間を創ることも併せて検討する。
7-6	教育研究等環境の適切性を定期的に検証し、研究の成果を共有するポートフォリオの導入が必要である。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大学の HP で研究業績の更新がされている。「環境創造フォーラム」（11月21日）の報告書。大学の HP.

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014 ～ 2018)	学術誌『環境創造』の発刊状況 掲載、業績本数、研究内容の共有ができる記録を付け、学修ポートフォリオのフォーマットを用意し、学際性を活かしていく。	年間 2 回の『環境創造』の刊行 教員は、少なくとも年 1 本の論文、研究ノートまたは書籍の刊行を行う。各教員の研究業績や FD 活動に関しては「教育研究ワークショップ」を活用して共有する。	→				
14 年度 目標	学術誌『環境創造』の発刊状況などを掲載、教育実績や業績本数の多い教員の努力を讃える。科研費の獲得、各種賞の受賞など。国内研究員成果報告、海外研究員成果報告を教授会でを行うことを義務付ける。	年間 2 回の『環境創造』の刊行。 ・ライティング・カフェの実践と成果報告を行う。 ・ポートフォリオの導入を検討する。	→				